【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成23年1月20日(2011.1.20)

【公表番号】特表2010-515491(P2010-515491A)
【公表日】平成22年5月13日(2010.5.13)
【年通号数】公開・登録公報2010-019
【出願番号】特願2009-545035(P2009-545035)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　11/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　 2/18　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　11/00　　３５０
Ａ６１Ｆ　 2/18

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月25日(2010.11.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
耳鳴りを音響治療するためのインターネットに基づくシステムであって、該システムは、インターネットサービスプロバイダが提供するウェブサイトと、該ウェブサイトに関連する支払金受理機能と、前記ウェブサイトに関連し、パルス繰り返し数が１００Ｈｚ未満の非正弦脈動電気波形を含む音響信号とを含み、前記ウェブサイトは、耳鳴りの罹病者がインターネットを介してアクセスして、受理される支払金を支払い、前記罹病者の少なくとも片方の耳に関連するヘッドフォン又は同様の音響トランスデューサに前記音響信号をダウンロードすることができる、
ことを特徴とするシステム。
【請求項２】
耳鳴りを治療する方法であって、
（ｉ）耳鳴り罹病者の少なくとも片方の耳にヘッドフォン又は同様の音響トランスデューサを当てるステップと、
（ｉｉ）パルス繰り返し数が１００Ｈｚ未満の非正弦脈動電気波形を含む前記音響信号を前記ヘッドフォンに印加するステップと、
を含むことを特徴とする方法。
【請求項３】
耳鳴りを治療するための電気発生器であって、パルス繰り返し数が１００Ｈｚ以下の非正弦脈動電気波形を発生させるための少なくとも１つの発振器手段と、ヘッドフォン又は同様の音響トランスデューサと接続するようにされた出力接続部とを備える、
ことを特徴とする電気発生器。
【請求項４】
耳鳴りを治療するための電気再生装置であって、パルス繰り返し数が１００Ｈｚ未満の非正弦脈動電気波形を記憶する電子又は磁気記憶手段と、ヘッドフォン又は同様の音響トランスデューサと接続するようにされた出力接続部とを備える、
ことを特徴とする電気再生装置。
【請求項５】

耳鳴りを治療するための記憶済みオーディオ製品であって、パルス繰り返し数が１００Ｈｚ未満の非正弦脈動電気波形を記憶した電気又は磁気記憶手段を備え、前記製品は、互換性のある電気再生装置で作動されると、ヘッドフォン又は同様の音響トランスデューサに受け入れられる形の前記波形を再生する、
ことを特徴とする記憶済みオーディオ製品。
【請求項６】
プロセッサユニットと、該プロセッサユニットに接続されてそこから電圧を受け取る埋め込み可能電極とを含む蝸牛インプラントであって、前記プロセッサユニットは、前記埋め込み可能電極に印加されるパルス繰り返し数が１００Ｈｚ未満の非正弦脈動電気波形を受け取り、或いは発生させるようにプログラムされる、
ことを特徴とする蝸牛インプラント。
【請求項７】
前記脈動電気波形は、方形波、三角波、及びのこぎり波から成るグループから選択される、
ことを特徴とする請求項１から請求項６のいずれか１項に記載の発明。
【請求項８】
前記脈動電気波形は、各々が所定の持続時間の３つの順番の前記波を含む、
ことを特徴とする請求項７に記載の発明。
【請求項９】
前記順番は、第１の方形波、次に三角波、その次に第２の方形波を含む、
ことを特徴とする請求項７に記載の発明。
【請求項１０】
前記第１の方形波と第２の方形波とは異なる、
ことを特徴とする請求項９に記載の発明。
【請求項１１】
前記持続時間の各々は、約１分から約２０分の範囲にある、
ことを特徴とする請求項８から請求項１０のいずれか１項に記載の発明。
【請求項１２】
前記順番の波の各々は、対応する休止期間だけ時間的な隔たりがある、
ことを特徴とする請求項８から請求項１１のいずれか１項に記載の発明。
【請求項１３】
前記休止期間の各々は、約ゼロから約５分の範囲にある、
ことを特徴とする請求項１２に記載の発明。
【請求項１４】
前記耳鳴り罹病者は、該罹病者の少なくとも片方の耳に関連するヘッドフォン又は同様の音響トランスデューサに前記非正弦脈動電気波形を印加している最中に頭を実質的に逆さに向ける、
ことを特徴とする請求項１から請求項１３のいずれか１項に記載の発明。
【請求項１５】
前記パルス繰り返し数は、約２０Ｈｚと約４０Ｈｚとの間にある、
ことを特徴とする請求項１から請求項１４のいずれか１項に記載の発明。
【請求項１６】
前記音響信号から送出される前記音響出力は、前記耳鳴り罹病者において最初にマスキング効果が得られるレベルまで増大される、
ことを特徴とする請求項１から請求項１５のいずれか１項に記載の発明。
【請求項１７】
ヘッドフォン（９）又は同様の音響トランスデューサに電気信号を印加することによって生成された治療用の音であって、前記電気信号は、パルス繰り返し数が１００Ｈｚ未満の非正弦脈動電気波形（Ｖ）を含むことを特徴とする治療用の音。